

# 平成27年度「福島県学力調査」結果について 《小学校第5学年》

福島県教育委員会

## 1 調査趣旨

全県的な規模で児童生徒の学習の実現状況を調査し、学習指導上の課題及び学習指導の改善点を明らかにし、各学校等における改善の取組に資するとともに、学習習慣や生活習慣及び意識等と学力との関連性を分析し、学校を中核としながら地域や保護者と連携して学力向上に取り組む基盤づくりを図る。

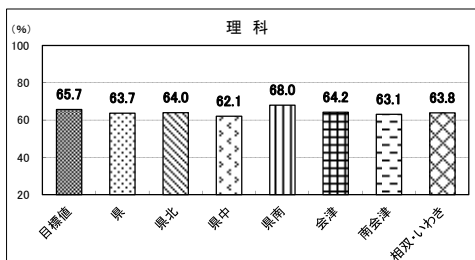
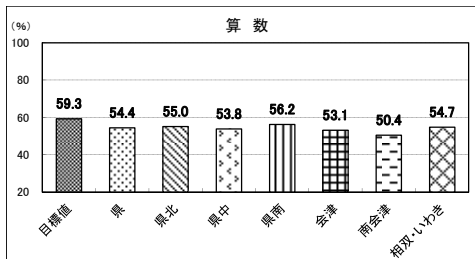
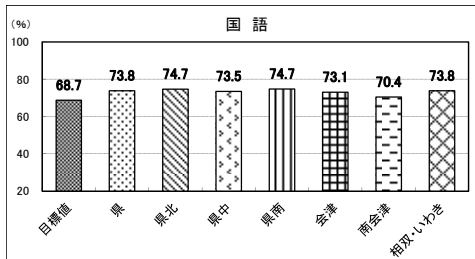
## 2 実施日程

平成27年11月9日(月)～13日(金)

## 3 受検人数及び調査時間(小5)

【受検人数】			
国語	算数	理科	意識
15,875	15,872	15,871	15,877
【調査時間】			
45分	45分	45分	30分程度

## 4 生活圏別教科平均正答率



## 5 結果の概要

※目標値：学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合に、正答できることを期待した児童の割合。

### 1) 国語

#### ①集計結果 (%)

	県	目標値
平均正答率	73.8	68.7

教科全体の平均正答率は73.8%で、目標値を5.1ポイント上回っている。

#### ②カテゴリー別正答率 (%)

分類	区分	県	目標値
知識・活用	教科全体	73.8	68.7
	知識	76.1	71.3
	活用	70.6	65.0
領域	話すこと・聞くこと	53.6	51.7
	書くこと	91.7	78.8
	読むこと	68.1	67.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.6	70.9
観点	国語への関心・意欲・態度	68.7	65.0
	話す・聞く能力	53.6	53.1
	書く能力	76.6	70.8
	読む能力	66.0	65.0
	言語についての知識・理解・技能	77.9	70.7

領域別平均正答率では、すべての領域で目標値を上回っており、特に「書くこと」は目標値を12.9ポイント上回っている。観点別平均正答率は、すべての観点で目標値を0.5～7.2ポイント上回っている。

### 2) 算数

#### ①集計結果 (%)

	県	目標値
平均正答率	54.4	59.3

教科全体の平均正答率は54.4%で、目標値を4.9ポイント下回っている。

#### ②カテゴリー別正答率 (%)

分類	区分	県	目標値
知識・活用	教科全体	54.4	59.3
	知識	59.1	64.7
	活用	44.9	48.3
領域	数と計算	56.3	63.1
	量と測定	49.9	57.5
	図形	53.2	60.0
	数量関係	53.8	53.8
観点	算数への関心・意欲・態度	43.3	48.3
	数学的な考え方	46.2	51.7
	数量や図形についての技能	56.8	62.1
	数量や図形についての知識・理解	57.1	60.0

領域別平均正答率では、「数量関係」は目標値と同率であるが、他の領域は6.8～7.6ポイント下回っている。観点別平均正答率では、すべての観点が目標値を下回っており、「数量や図形についての知識・理解」は2.9ポイント、他の観点はいずれも5ポイント以上、下回っている。

### 3) 理科

#### ①集計結果 (%)

	県	目標値
平均正答率	63.7	65.7

教科全体の平均正答率は63.7%で、目標値を2.0ポイント下回っている。

#### ②カテゴリー別正答率 (%)

分類	区分	県	目標値
知識・活用	教科全体	63.7	65.7
	知識	63.7	67.6
	活用	63.7	60.6
領域	物質・エネルギー	61.1	62.1
	生命・地球	65.6	68.2
観点	自然事象への関心・意欲・態度	65.6	64.4
	科学的な思考・表現	67.1	64.1
	観察・実験の技能	62.0	70.0
	自然事象についての知識・理解	62.0	66.7

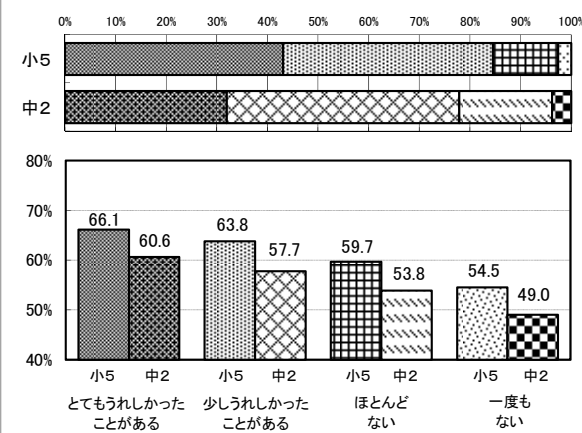
領域別平均正答率では、二つの領域ともに目標値をそれぞれ1.0ポイント、2.6ポイント下回っている。観点別平均正答率では、「自然事象への関心・意欲・態度」「科学的な思考・表現」は目標値をそれぞれ1.2ポイント、3.0ポイント上回っているが、他の観点は目標値を下回り、特に「観察・実験の技能」は8.0ポイント下回っている。

## 4) 意識調査

※⑤、⑥の2項目については、裏面に記載。

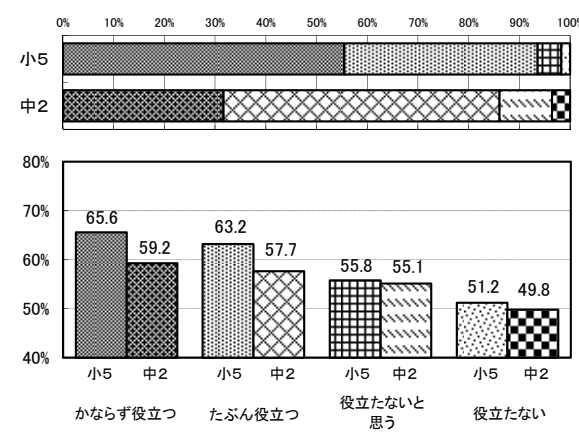
※帯グラフは各選択肢の割合。縦棒グラフは各選択肢を選んだ集団ごとの全教科の平均正答率(小：3教科、中：4教科)。

### ①「自分なりにがんばったことを、先生がみとめてくれて、うれしかったことがありますか」



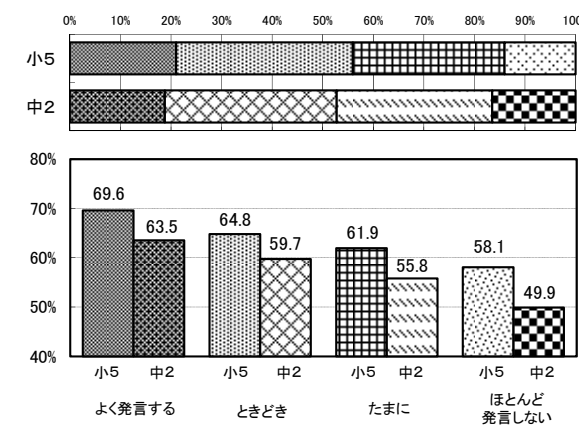
先生のささえについて、「とてもうれしかったことがある」「少しうれしかったことがある」と肯定的に回答している児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向にある。「とてもうれしかったことがある」と「一度もない」との差は、小・中学校とも11.6ポイントである。

### ②「学校で学んだことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」



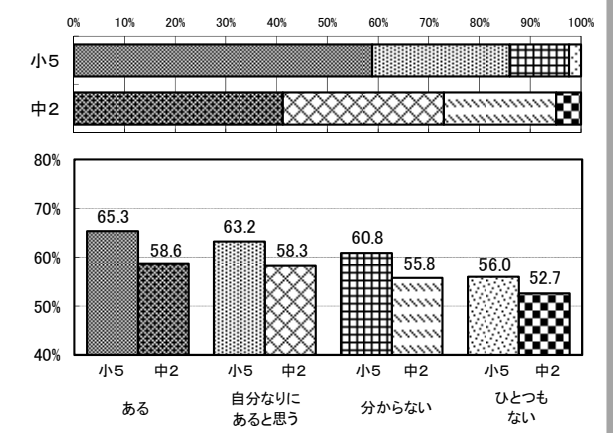
学校で学んだことは、将来、社会に出たときに「かならず役立つ」「たぶん役立つ」と肯定的に回答している児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向にある。「かならず役立つ」と「役立つしない」との差は、小学校で14.4ポイント、中学校で9.4ポイントである。

### ③「クラスや友だちの間に、話し合いをするとき、自分の意見を積極的に発言する方ですか」



自分の意見を積極的に発言することについて、「よく発言する」「ときどき」と肯定的に回答している児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向にある。「よく発言する」と「ほとんど発言しない」との差は、小学校で11.5ポイント、中学校で13.6ポイントである。

### ④「勉強や運動、クラブ、習い事、しゅみなどで、自分なりに自信を持っていることがありますか」



勉強や運動などで、自分なりに自信を持っていることが「ある」「自分なりにあると思う」と肯定的に回答している児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向にある。「ある」と「ひとつもない」との差は、小学校で9.3ポイント、中学校で5.9ポイントである。